

な か ま

プリンスン日本語学校新聞



平成24年度 No.31号

平成24年1月6日

文責 長尾重範

凍る時 32度を またぐ水
葬儀屋も 宗旨替えする 初もうで

書き初め

文部科学省国際教育課長が視察のため来校されました！

行事予定表

1月13日	書き初め Pコース・高等部入学説明会
1月20日	書き初め(幼稚部)書き初め展示会
1月27日	JASL Fall 終了(2月3日 Spring 開始)
2月10日	新小1入学者合同説明会
2月17日	古本セール
2月24日	幼稚部説明会

『一年の計は元旦にあり』

「継続は力なり」

千の漢字を一日で覚えるのは大変だけど、十字を毎日覚え百日かけて千字を覚えることはできますね。

継続こそ最も大きな力になることを忘れないで今年も頑張りましょう。



補習校同窓会に参加して

補習校同窓会は12月21日にNY総領事公邸で100名ほどが参加して盛大に行われました。カルダー理事長が発起人ではじまったこの会は、卒業生と企業関係者等とのネットワークを築くことを目的にしています。卒業生の誰もがバイリンガルの長所を生かして仕事をしているわけではありませんが、彼らは将来きっと自らの素晴らしい語学力を生かして広い立場で大活躍してくれるだろうと思いました。

現在、本校で大変な苦勞をして日本語を学んでいる皆さんに、今まで以上に、エールを送りたい気持ちになりました。将来、日米間でまたは地球規模で活躍されるだろう皆さんに、大きな志を持ち続けてほしいし、今の学びがとても大切なことを改めて自覚してほしいと思ったのでした。

「使っても使っても減らないものはな～んだ？」その答は「頭脳」なのですが、特に若い皆さんの頭脳は「使っても使っても減らない」ので今は苦勞をしていても、がまんして徹底して日本語学習を続けてほしいと思います。

心シリーズ(6)「共感の心」2

『徒然草』で述べられている友だちにしたくない7人(①高貴な人②若い人③元気な人④酒飲み⑤逞しく強い人⑥うそつき⑦よくばり)と、友だちにしたい3人(⑧物くれる人⑨医者⑩賢い人)についてもう少し考えてみたいと思います。

まず思ったのは、2500年ほど昔の『論語』の時代から人の心は変わらないのだなあということでした。自分の悩みや苦しみを和らげてくれる友は、元気で強い人ではなく、まして自分本位な人でもないようです。なぜか納得させられます。

さらに、よい友だちとして物くれる人が挙げられていることにも共感します。物であふれている現代でも、物をもらうことで嬉しい気持ちになるのは同じですね。⑧⑨⑩はいずれも自分に利益をもたらす人ですから、友だちにしておく価値はあるでしょう。特に⑩はこれからますます利用価値が高くなりそうな気がします。

それらに加えて、日々の生活で生きていくために必要な自信や希望が見いだせなくなった時に、自分のことをわかってもらえる友は、かけがえもなく大きな価値を持っていると思います。

それでは、友から期待される自分になるためにはどうすればよいのでしょうか。大きな病気をしたり、とことん貧乏になれば、確かに自分と同じような境遇にある人の気持ちは理解できやすくなるでしょう。それなら病気や困窮を味わった人だけが共感の心があるかということ、決してそうとばかりも言えないのではないのでしょうか。

病気をしなければ人の心がわからないのではなくて、病気をすることで自分の限界なりに正面から向き合いとことん考え続けることで、共感的な心が強くなり、その結果、相手の心を強く動かすことができるようになるのではないのでしょうか。普段の生活では何事においても、とことん考えることをあまりしませんが、日頃の小さいと思えるような経験さえも大事にして、深く考えるという積み重ねが、共感する心を鍛えることになると思うのです。共感する心を鍛えることは、ひいては自分の人間的な総合力を高めるための礎を強くする作業でもあります。

こう考えてくると、自分以外の人に自分の心を重ねていく共感の心は、自分に向き合う力強い心の鍛えによって育てられ作られてくるのであって、貧しさや病いがそのまま共感の心を育てるのではないのだということに行きつきます。